

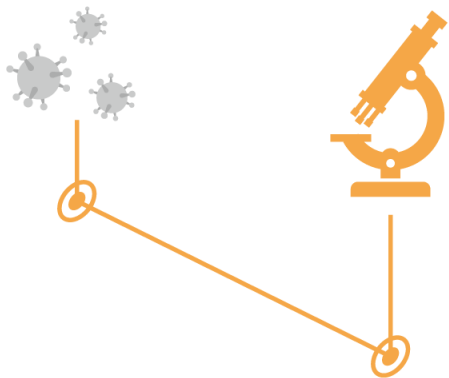
---

eラーニング No.3

---

# HPV感染と子宮頸がんの発症について

---



## HPV検査単独法を施行するものが 知っておくべき発がん機序に関する知識

- 1 子宮頸がんに関係するHPVとは？
- 2 子宮頸部前がん病変とは？
- 3 子宮頸部扁平上皮がんとは？
- 4 子宮頸部腺がんとは？
- 5 HPV感染から始まる子宮頸がんの発がん機序とは？

# 1 子宮頸がんに関するHPVとは？

- ① ヒトパピローマウイルス（HPV）は、200以上の種類があり、その内、約15種類が子宮頸がんの「高リスク型HPV」と呼ばれている
- ② 子宮頸部の細胞に異常がない女性のうち、10～20%程度の方がHPVに感染していると報告されている
- ③ HPVに感染しても約90%の確率で2年以内にウイルスは自然に排除される
- ④ 数年から数十年にわたって持続的に感染した場合に、がんになることがあると報告されている

## 2 子宮頸部前がん病変とは？

- 1 子宮頸部前がん病変は、CIN\*1/CIN2/CIN3/AIS+に分類される
- 2 HPV感染に関し
  - CIN1 80%で高リスク型HPVを検出
  - CIN2 ほぼ全例で高リスク型HPVを検出
  - CIN3 ほぼ全例で高リスク型HPVを検出
  - AIS ほぼ全例で高リスク型HPVを検出
- 3 治療方針
  - CIN1 がんに進展するリスクは低いが、CIN2以上への進展を念頭におき通院で経過観察する
  - CIN2 CIN3あるいは扁平上皮がんに進展するリスクが一定程度あるが、経過観察中に消退することもある。1～2年の経過観察期間中に自然消失しない場合などは外科的治療を考慮する
  - CIN3 CIN3とAISの混在や浸潤がんの併存もありえるので、確定診断のために円錐切除術を行うことが基本になる。AISと診断された場合には単純子宮全摘出術が推奨される
  - AIS

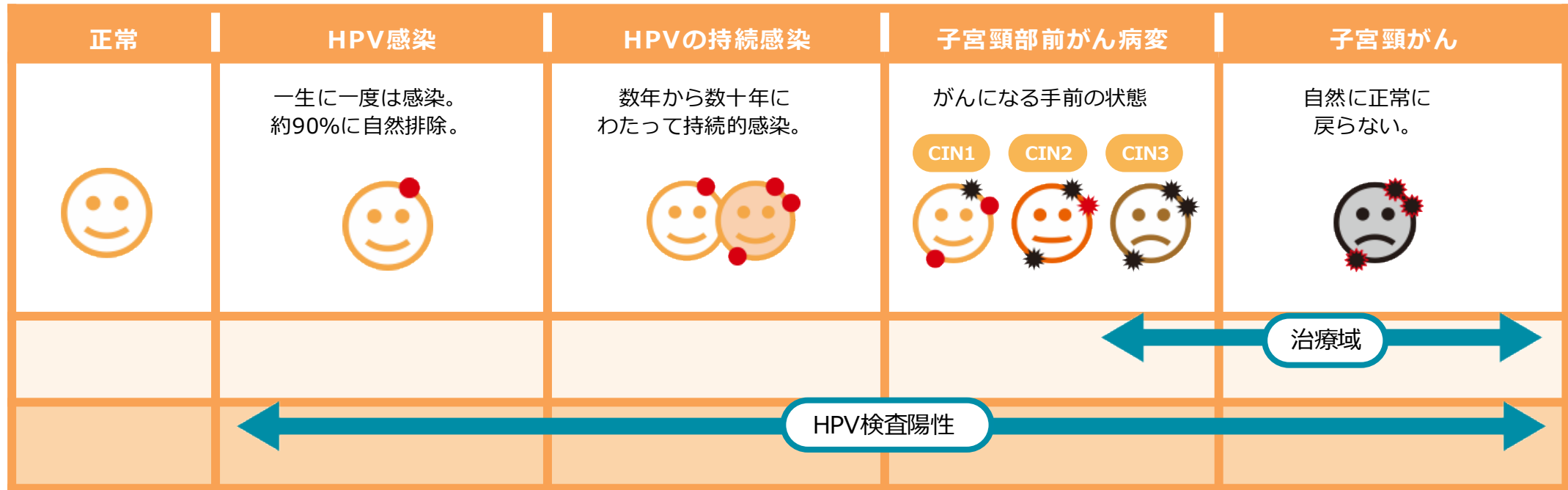
### 3 子宮頸部扁平上皮がんとは？

- 1 HPV関連とHPV非依存性に分類され、大部分がHPV関連扁平上皮がんである
- 2 子宮頸がん（腺がん含む）の年齢階級別罹患率は30歳代から50歳代に高い

## 4 子宮頸部腺がんとは？

- 1 HPV関連腺がんとHPV非依存性がんに分けられる
- 2 HPV検査単独法は  
細胞診単独法より腺がんの検出率を高める効果がある

# 5 HPV感染から始まる子宮頸がんの発がん機序とは？



数年～十数年かけて進行